

## 平成30年度 看護学部1学年シラバス（前期・通年）

<前期>

英語ⅠA	…P2～7
英語ⅠB	…P8～14
フランス語	…P15～20
ドイツ語	…P21～26
スペイン語	…P27～33
中国語	…P34～40
心理学	…P41～46
生活と科学	…P47～53
女性学	…P54～59
倫理学	…P60～66
統計学	…P67～73
自然科学（生物）	…P74～79
数学	…P80～85
文学	…P86～91
音楽	…P92～98
体育Ⅱ	…P99～104
社会と医療・福祉・保健	…P105～110
人体解剖生理学Ⅰ	…P111～116
生化学	…P117～122
看護学の基本Ⅰ	…P123～128
コミュニケーションに関する技術	…P129～135
看護実践を支える看護技術とアセスメントⅠ	…P136～141
社会と法（日本国憲法を含む）	…P142～148

※自然科学は1つの科目で「生物」「物理」「化学」の3分野の講義を行います（3分野全て必修です）。

※音楽は前期（8月）と後期（2月予定）にそれぞれ2日程度ずつ集中講義という形で行います。

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）： 英語 I A (English IA)

教員名：Régis de Lavison（レジス・ドラビゾン）

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：クラスの形式には、会話練習、ペアワークとグループワーク、クラスへの短いプレゼンテーションが含まれます。社会問題に関するトピックディスカッションも、クラスの重要な部分を構成します。

学習目標：このクラスの主な目的は、学生が英語で一般的な能力を開発することです。これには、基本的な文法の見直し、会話パターンの練習、そしてクラスディスカッションが含まれます。英語コミュニケーションのための会話とリスニングスキルの開発に焦点を当てます。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践で		

			きる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		

	実践能力を備えた看護専門職者	③	看護を統合する科目		
<b>5. 看護の実践</b>					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
<b>6. 地域社会への貢献</b>					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の 人々の生 命と暮ら しを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災 害から学 ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： **Fifty-Fifty Book 1, Third Edition (PEARSON LONGMAN)**

参考書：

成績評価方法：出席＋交流活動（20点）、レポート（HW）X4回（20点）、期末試験（60点）

その他（メッセージ等）：このクラスを受講するには、出席と参加が必要です。成績には、テスト、参加、出席が含まれます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	Class Introduction	クラス紹介と説明
第2回	Getting Started: Pages 2-4	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第3回	Chapter 1: Pages 5-8	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第4回	Chapter 2: Pages 11-14 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第5回	Chapter 3: Pages 16-19	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第6回	Chapter 3/4: Pages 20-23	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第7回	Chapter 4: Pages 24-26	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第8回	Chapter 5: Pages 27-29	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第9回	Chapter 5: Pages 30-31	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第10回	Chapter 6: Pages 32-34 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第11回	Chapter 6: Pages 35-36	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第12回	Chapter 7: Pages 38-39	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第13回	Chapter 7: Pages 40-41	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第14回	復習	ペア&グループワーク・Q&A
第15回	期末試験	
第16回	Chapter 8: Pages 43-45 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第17回	Chapter 8: Pages 46-47	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第18回	Chapter 9: Pages 48-51	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第19回	Chapter 9: Pages 52-54	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第20回	Chapter 10: Pages 55-57	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第21回	Chapter 10: Pages 58-60	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第22回	Chapter 11: Pages 61-63	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第23回	Chapter 11/12: Pages 64-66	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第24回	Chapter 12: Pages 67-69 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第25回	Chapter 13: Pages 71-74	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第26回	Chapter 13/14: Pages 75-78	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第27回	Chapter 14: Pages 79-81	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第28回	Chapter 14/15: Pages 82-84	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第29回	Chapter 15: Pages 85-86	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第30回	期末試験	

区分名：

科目名（英語名称含む）：英語 IB (English IB)

教員名： Peter Bryan McCann（ピーター・ブライアン・マカーン）

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：During their six years of English studies in junior and senior high schools most students did not get many chances to speak English or use English for practical purposes. This course will aim at giving students confidence in using English for communicating. Students will be introduced to a variety of real-life situations. The class will be conducted entirely in English

学習目標：The course will aim at teaching the students the basic daily conversational skills by being given the chance to practice language through communicative tasks, build their language strategies, and find their way to becoming more comfortable in the real world. Focus will be placed on listening comprehension and oral production. Many listening activities and speaking activities (role play and information gap activities) will be proposed during the course. Review and reinforcement of English language structures will help towards smoother and more effective communication. Students will be asked to participate actively in the class to make the most out of the course.

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		



2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

## 2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

## 3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はある
----	----------	---	---------------------------------------	---	----------

	人々との コミュニ ケーショ ン		る。		が、単位認 定に関係 ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームで のコミュニ ケーシ ョン	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機 会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せるこ
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		

		④	看護の基本となる科目		とが単位認定の要件である
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
<b>5. 看護の実践</b>					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト : Face2Face Pre-Intermediate Student' s Book, Second Edition. Chris Redston & Gillie Cunningham. CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS

参考書 :

成績評価方法 : A written test will be given at the end of the course that will account for 70% of each student' s total score. Attendance will account for 20%, and for the final 10%, students will be assessed on their classroom participation throughout the course.

その他 (メッセージ等) : Please remember that active participation in class is essential in order get the most out of it. Also, if you have any questions, please feel free to contact me at any time.

授業内容 (学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	1A: Life stories	<b>Vocabulary:</b> introduction questions, common responses.
第2回	1B: Super commuters	<b>Vocabulary:</b> questions about travel, work <b>Grammar:</b> subject questions.
第3回	1C: Time off	<b>Vocabulary:</b> free time activities <b>Grammar:</b> frequency adverbs.
第4回	2A: Beginnings	<b>Vocabulary:</b> past time phrases <b>Grammar:</b> past simple
第5回	2B: How we met	<b>Vocabulary:</b> relationships <b>Grammar:</b> past continuous
第6回	2C: Coincidences	<b>Vocabulary:</b> adjectives, connecting words
第7回	3A: Getting qualified	<b>Vocabulary:</b> employment <b>Grammar:</b> <i>have to/had to</i>
第8回	3B: Job-hunting	<b>Vocabulary:</b> looking for a job <b>Grammar:</b> present Continuous vs Simple
第9回	3C: What a job!	<b>Vocabulary:</b> world ending - noun endings.
第10回	4A: Lookalikes	<b>Vocabulary:</b> types of film, past participles. <b>Grammar:</b> present perfect - life experiences.
第11回	4B: My music	<b>Vocabulary:</b> types of music <b>Grammar:</b> present perfect - <i>Have you ever...?</i>
第12回	4C: TV or not TV?	<b>Vocabulary:</b> TV nouns and verbs, <i>-ed</i> and <i>-ing</i> adjectives.

第 13 回	5A: A crowded planet	<b>Vocabulary:</b> the environment <b>Grammar:</b> <i>will</i> for prediction, <i>might</i> .
第 14 回	5B: Never too old	<b>Vocabulary:</b> collocations <b>Grammar:</b> <i>be going to</i> - plans and ambitions.
第 15 回	COURSE REVIEW	
第 16 回	6A: Teenagers	<b>Vocabulary:</b> adjectives - character <b>Grammar:</b> comparatives, quantifiers.
第 17 回	6B: Roles people play	<b>Vocabulary:</b> relationships <b>Grammar:</b> superlatives
第 18 回	6C: Family Business	<b>Vocabulary:</b> adjectives and prefixes: <i>un</i> , <i>in</i> , <i>im</i> , <i>dis</i> .
第 19 回	7A: 50 places to go	<b>Vocabulary:</b> travel <b>Grammar:</b> Present continuous for future arrangements
第 20 回	7B: What are you taking?	<b>Vocabulary:</b> things we take on holiday <b>Grammar:</b> quantifiers, possessive pronouns
第 21 回	7C: Wish you were here	<b>Vocabulary:</b> phrases with <i>go</i> .
第 22 回	8A: Home sweet home	<b>Vocabulary:</b> describing your home <b>Grammar:</b> present perfect with <i>for</i> and <i>since</i> .
第 23 回	8B: Meet the parents	<b>Vocabulary:</b> going to dinner <b>Grammar:</b> <i>should</i> , <i>shouldn't</i> , <i>must</i> , <i>mustn't</i> .
第 24 回	8C: Cultural differences	<b>Vocabulary:</b> common verbs; verb patterns
第 25 回	9A: Problems, problems	<b>Vocabulary:</b> everyday problems <b>Grammar:</b> first conditional, future time clauses
第 26 回	9B: Sleepless nights	<b>Vocabulary:</b> adjectives - feelings <b>Grammar:</b> <i>too</i> , <i>too much</i> , <i>too many</i> , <i>(not) enough</i> .
第 27 回	9C: Noisy neighbours	<b>Vocabulary:</b> phrasal verbs
第 28 回	10A: The collectors	<b>Vocabulary:</b> verbs used in the passive <b>Grammar:</b> present/past simple passive
第 29 回	10B: Shopping trends	<b>Vocabulary:</b> words with <i>some-</i> , <i>any-</i> , <i>no-</i> and <i>every-</i> <b>Grammar:</b> <i>used to</i>
第 30 回	COURSE REVIEW	

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）： フランス語 （français débutant）

教員名：Régis de Lavison（レジス・ドラビゾン）

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期後期 ，必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：挨拶、ウォーミングアップ、主席、国際交流活動、宿題の丸付け、新しい会話、単語、文法、などの勉強

学習目標：会話中心で、フランス語はどういう言葉とフランスやカナダはどんな国のはこの授業の第一目標です。

単語の勉強が多いのですが文法が軽いです。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に	△	修得の機会はある

			敬意を払って接することができる。		あるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		



2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

	職者				
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らし	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明	△	修得の機会はあるが、単位認

	しを守る		できる。		定に 関係 ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島 の災 害から学 ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機 会はある が、単位 認定に関 係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	<del>看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。</del>	●	実践の基 盤となる 知識を示 せること が単位認 定の要件 である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： **Ensemble** (KOHGAKUSHA)

参考書：

成績評価方法：出席＋交流活動 (20点), 小テスト&レポート X 16回 (80点)

その他 (メッセージ等)：宿題が毎週 1 時間以内が必要です。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1 回	会話 1 (p.7) 国籍、職業	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第 2 回	同上+数字、自己紹介	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第 3 回	会話 2 (p.15)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第 4 回	同上+数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A

第5回	会話3 (p.27)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第6回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第7回	会話4 (p.36)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第8回	同上+数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第9回	同上+12個の質問ゲーム	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第10回	会話5 (p.44)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第11回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第12回	会話6 (p.49)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第13回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第14回	p.53, ex. 73, 74, 75, 76, 77	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第15回	会話7 (p.55)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第16回	同上 + ex. 90	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第17回	会話8 (p.67)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第18回	会話9 (p.76)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第19回	同上+第一グループの動詞の活用・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第20回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第21回	会話10 (p.92)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第22回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第23回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第24回	p.106の文法	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第25回	会話11 (p.104)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第26回	会話12 (p.117)+ 第3グループ動詞と代名動詞	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第27回	同上・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第28回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第29回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第30回	小テスト	まとめ

区分名： 表現力を培う（コミュニケーション）

科目名（英語名称含む）：ドイツ語（German）

教員名：九頭見和夫

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期～後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：グローバル化している世界の中で、私たちがしなければならないことは、世界を知ることだと思います。この授業では、この視点に立って、明治時代以降日本と深い関わりを持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語圏の国々について学習します。

学習目標：1) 文章を正確に発音し、内容を理解することができる。

2) 短い文章を作り、相手に自分の考えを伝えることができる。

3) ドイツ語圏の生活や歴史等に興味を持ち、学習することができる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	—	修得の機 会が ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセスメ ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。</p>					



1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：「クヴェレ・ドイツ文法」（新訂版）、森公成他著、同学社

参考書：授業の中で紹介します。

成績評価方法：全授業回数の3/4以上の出席を評価の条件とします。

その上で試験の成績、質問への回答など授業への積極的な参加、小テスト、レポート等を総合して最終成績を決定します。

詳細については1回目の授業の際に説明します。

その他（メッセージ等）：グローバル化している世界の中では、福島とか、日本とか限定された範囲ではなく、広く世界に目を向けることを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画

第2回	ドイツの概説(1)	ドイツ連邦共和国について
第3回	ドイツの概説(2)	ヨーロッパの言語とドイツ語
第4回	ドイツ語の発音	アルファベットと発音の規則
第5回	第1課	動詞の現在人称変化(1)
第6回	第1課	ドイツ語の文型。ドイツの食文化
第7回	第2課	名詞の性、数、格。ドイツの歴史と宗教。
第8回	第2課	定冠詞と不定冠詞。ヨーロッパの気候。
第9回	授業のまとめ	中間試験について
第10回	中間試験	授業の理解度をみる
第11回	第3課	名詞の複数形(1)。ドイツ人の余暇・休暇
第12回	第3課	名詞の複数形(2)。ヨーロッパの歴史と宗教。
第13回	第4課	動詞の現在人称変化(2)。グリム童話
第14回	第4課	命令形。ドイツの教育制度
第15回	授業のまとめ	前期試験について
第16回	前期の復習	前期に学習したことの理解度の確認
第17回	第5課	定冠詞類と不定冠詞類。ドイツの交通
第18回	第5課	人称代名詞。ドイツのビールなど。
第19回	付録	数詞。ドイツの手工業・農業
第20回	第6課	前置詞。簡単な日常会話(1)
第21回	第6課	従属の接続詞。簡単な日常会話(2)
第22回	授業のまとめ	前期試験について
第23回	中間試験	これまでの授業の理解度をみる
第24回	第7課	話法の助動詞。ドイツのサッカー
第25回	第7課	未来形の文。医学用のドイツ語(1)
第26回	第8課	動詞の三基本形。医学用のドイツ語(2)
第27回	第8課	過去形の文。医学用のドイツ語(3)
第28回	第9課	現在完了形の文(1)。医学用のドイツ語(4)
第29回	第9課	現在完了形の文(2)。医学用のドイツ語(5)
第30回	後期のまとめ	後期末試験について

区分 表現力を培う

科目名 スペイン語

教員名 須田明博

開設学期 2018 度前期～後期

必修/選択 選択

授業形態 演習 , 単位数 2 単位, 時間数 60 時間

授業の概要 「スペイン語はじめの一步」

#### 一般目標

スペイン語は世界で推計 3 億 3900 万人が使用し世界第 2 位の話者数を持つ言語です。スペインはもとより、ラテンアメリカ地域の大半の地域で公用語になっていますし、アメリカ合衆国でもカリフォルニア・フロリダ州を中心にスペイン語を運用できる人々が社会的影響力を持っています。発音は慣れればそれほど難しくありません。社会・文化・スポーツときっかけはどこからでも構いません。スペイン語、スペイン語文化圏に関心を持ってもらえれば嬉しいです。

#### 行動目標

手助けがあればスペイン語を日常生活レベルで運用できるレベルで体得しましょう。欧州で広く導入されつつあるヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) A2 レベル (初級・スペイン教育文化スポーツ省が認定する国際スペイン語検定レベル A2 クラス) を目指しましょう。テキストのタイトルには「文法中心」とありますが実際の授業では使えるようにする練習を重視します。スペイン語を理解するお手伝いをさせてください。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を積極的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基礎となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		

		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサー		

			ビスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

## 授業内容（学習項目）

第1回	第1課(1)	イントロダクション
第2回	第1課(2)	アルファベット、発音、音節、挨拶「こんにちは！」
第3回	第2課	私は学生です。
第4回	第3課	私たちは学生です。
第5回	第4課	サッカーの試合があります。
第6回	第5課(1)	私は家族と一緒に住んでいます。(1)
第7回	第5課(2)	私は家族と一緒に住んでいます。(2)
第8回	第6課(1)	ロラは背が高く美しい女の子です。(1)
第9回	第6課(2)	ロラは背が高く美しい女の子です。(2)
第10回	第7課	今何時ですか？
第11回	第8課	私たちの大学は地下鉄の駅の近くにあります。
第12回	第9課(1)	私は両親にメールを書きます。(1)
第13回	第9課(2)	私は両親にメールを書きます。(2)
第14回	第10課	君はダイエットを始めるのですか？
第15回	第11課	私はとても眠いです。
第16回	おさらい	前期の内容の確認
第17回	第12課	私はスポーツをするのが大好きです。
第18回	第13課	毎朝私は7時に起きます。
第19回	第14課(1)	12粒のぶどうが食べられます。(1)
第20回	第14課(2)	12粒のぶどうが食べられます。(2)
第21回	第15課(1)	今朝私はひどい寝坊をしました。(1)
第22回	第15課(2)	今朝私はひどい寝坊をしました。(2)
第23回	第16課(1)	昨日は素晴らしい一日でした(1)
第24回	第16課(2)	昨日は素晴らしい一日でした(2)
第25回	第17課	私が小さかった時…。
第26回	第18課	スペインの人口はますます減少するでしょう。
第27回	第19課	両親は他人に優しくするようにと私に言います。
第28回	第20課	卵をボールに入れてください。
第29回	第21課	何か素敵なものが見つかりますように。
第30回	第22課	いつかリーガ・イベルドロラでプレイしたいです。

授業の進行状況によっては内容を変更する場合があります

## テキスト

木越勉『どみなーる』朝日出版社、2018年

上記テキストの音声サイト <http://text.asahipress.com/free/spanish/dominio/index.html>



## 参考書

鼓直他編『プログレッシブスペイン語辞典カレッジエディション』小学館、2016年

岡本信照『スペイン語のしくみ<<新版>>』白水社、2014年

## 成績評価方法

単位の評価対象となるのは授業回数の2/3以上を出席している者。それを下回った場合は自動的に不合格となります。また、語学は出席率と成績がほぼ比例しますので、欠席（忌引き、インフルエンザなどによる出席停止を除く）1回につき2点を減点します。

期末試験は前期に1回、後期に1回実施します。

毎週1回授業外での学習状況を報告する「セルフチェックシート」の提出をしてもらいます（約10点分に相当）。

詳細に関しては1回目の授業で説明します。

## 教員から学生へのメッセージ

スペイン語圏が持つ奥深い社会へ文化に関心を持ってもらえれば幸いです。また、一般教養科目（この語学を含めて）はみなさんが今まで持っていた「知のものさし」を組み立てなおす良い機会です。語学は「テクネー」（ギリシア語で「体が覚える学問」）の領域に属しますので一夜漬けでは単位は取れても役には立たないでしょう。単位をとることが最終目標ではありませんので、毎日少しでも（授業外で一日30分。目標としては週4時間）勉強することをお勧めします。皆さんは将来、他の人の命を守る職業に就くのでしょうか、他分野の業種の方と仕事をする人が多いでしょう。多くのことに早く気づいてくれることを期待します。

区分名：表現力を培う

科目名：中国語 (Chinese)

教員名：池澤 實芳

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期～後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：この授業は、基礎的な中国語の訓練、及び中国の社会や文化への興味・関心をもつ態度を身につけることにより、中国語のコミュニケーション能力の習得を目的とする。

学習目標：中国語(普通話)の発音(声母・韻母・声調など)、基本的な文法事項、基本的な語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して、中国語の基礎を習得するとともに、あわせて視聴覚教材などを通して、中国の社会や文化への興味・関心をもつ態度を身につける。

具体的な学習目標として、次の5点を習得することが望ましい。

- (1) ピンインを付した基礎的な語彙や簡単な文を正確に発音できる。
- (2) 基礎的な語彙や短い文を聞いて理解し、簡体字とピンインで書き取ることができる。
- (3) 平易で簡単な日常会話ができる。
- (4) 目的にあわせて中国語の簡単な文を作ることができる。
- (5) 中国の文化や社会について、断片的ながら初歩的・基礎的な知識を習得するとともに、中国への知的関心を持とうとする態度を身につけることができる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：陳淑梅、劉光赤著『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社、¥2300＋税

参考書：適宜教室で紹介する。

成績評価方法：定期試験または授業での期末試験(50%～60%)、発音試験・小テスト・視聴覚教材レポート・プレゼンテーションなど(50%～40%)により、総合的に評価する。(定期試験または期末試験と、発音試験・小テストなどの評価の比率は、概ね5対5乃至6対4だが、実際の授業の中で確定することになる。)

その他（メッセージ等）：実際の授業の進度は、様々な要因でシラバス通りに実施できないことがある。このシラバスは一応の目安と考えてほしい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	4/11 導入・第1課・発音(1)	ピンインと簡体字、音節、声調
第2回	4/18 第1、2課・発音(1)(2)	ドリル、単母音
第3回	4/25 第2課・発音(2)	複母音、ドリル
第4回	5/2 第3課・発音(3)	子音(1)
第5回	5/9 第3、4課・発音(3)(4)	ドリル、子音(2)
第6回	5/16 第4課・発音(4)	鼻音、ドリル
第7回	5/23 第5課+発音教材(1)	ポイント1,2、姓、名前の言い方、人称代名詞、発音教材(1)
第8回	5/30 第5課+発音教材(2)	本文(会話)、ワードバンク、ドリル、発音教材(2)、小テスト(1)
第9回	6/6 第6課+発音教材(3)	ポイント1,2、動詞「是」、助詞「的」、発音教材(3)、小テスト(2)
第10回	6/13 第6課+発音教材(4)	本文、ワードバンク、ドリル、発音教材(4)、小テスト(3)
第11回	6/20 第7課+発音教材(5)	ポイント1,2、動詞文の基本語順、連動文、発音教材(5)、小テスト(4)
第12回	6/27 第7課+発音教材まとめ	本文、ワードバンク、ドリル、発音教材(5)、小テスト(5)
第13回	7/4 第8課	ポイント1,2、助動詞「想」、動詞「有」、小テスト(5)
第14回	7/11 発音試験、視聴覚教材(1)	発音試験、視聴覚教材鑑賞(1)
第15回	7/18 視聴覚教材(2) 第8課・前期まとめ	視聴覚教材鑑賞(2)、レポート、夏休みの宿題通知
第16回	10/3 第1～8課または プレゼンテーション	前期の復習または夏休みの宿題のプレゼンテーション
第17回	10/10 第9課	ポイント1,2、動詞「在」、前置詞「从」「往」+音読教材(1)
第18回	10/17 第9課	本文(会話)、ワードバンク、ドリル+音読教材(2)、小

		テスト(1)
第19回	10/24 第10課	ポイント1,2、数字、形容詞述語文+音読教材(3)、小テスト(2)
第20回	10/31 第10課	本文、ワードバンク、ドリル+音読教材(4)、小テスト(3)
第21回	11/7 第11課	ポイント1,2、年月日、曜日の言い方+音読教材(5)、小テスト(4)
第22回	11/14 第11課	本文、ワードバンク、ドリル+小テスト(5)
第23回	11/21 発音試験、視聴覚教材	発音試験、視聴覚教材鑑賞
第24回	11/28 視聴覚教材	視聴覚教材鑑賞、レポート
第25回	12/5 第12課	ポイント1,2、量詞、動詞の重ね型
第26回	12/12 第12課	本文、ワードバンク、ドリル
第27回	1/9 第13課	ポイント1,2、時刻、変化の助詞「了」
第28回	1/16 第13課	本文、ワードバンク、ドリル
第29回	1/23 視聴覚教材	視聴覚教材鑑賞、レポート
第30回	1/30 第14課、後期のまとめ	ポイント1,2、時間の長さの言い方、完了の助詞「了」



区分名： 人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：心理学（Psychology）

教員名：三澤文紀

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：

心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」を理解する方法やそれを用いた方法を学ぶ。

学習目標：

- 1) 心理学の様々な考え方や知見があることを理解し、それぞれの特徴を理解している。
- 2) 心理学の主要な用語の意味について、授業の内容をもとに正しく答えることができる。
- 3) 人の行動や心理を心理学的視点から考えることに興味を持っている。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位

				認定に関係ない	
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：長田久雄（編） 看護学生のための心理学—第2版— 医学書院 2,400円＋税

参考書：授業内で適宜紹介します。

成績評価方法：前期中の小テストやレポート、期末試験、出欠状況、授業態度等によって総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：心理学の多様な考え方を学びましょう。なお、自習しやすいテキストを選定してあります。受講生には積極的な自習を求めます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
----	----	------------

第1回	心理学とは／感覚・知覚の心理／ 学習・記憶の心理	心理学の概説／感覚の種類と変化、知覚 の特徴、記憶のモデル
第2回	感情・動機の心理	感情の種類・起因、動機づけ、欲求の五 段階説
第3回	性格・知能の心理	性格の類型論・特性論、知能テスト
第4回	精神分析／パーソンセンタード・ アプローチ	無意識、心の構造、防衛機制／自己一致
第5回	パーソンセンタード・アプローチ とマイクロカウンセリング	共感的理解、傾聴
第6回	交流分析1	自我状態
第7回	交流分析2	交流パターンの分析
第8回	認知行動療法（学習理論・行動の 科学）1	条件づけ、行動分析学
第9回	認知行動療法（学習理論・行動の 科学）2	行動療法、認知療法
第10回	家族療法とシステムズアプローチ	円環的認識論、解決志向アプローチ
第11回	臨床心理学的方法のまとめ	臨床心理学的方法の小テスト
第12回	発達心理1	乳幼児期・児童期・青年期
第13回	発達心理2	青年期・成人期・老年期
第14回	社会・集団の心理	社会的認知、社会的態度、リーダーシッ プ
第15回	健康の心理と人間理解	患者の理解と心理学、ストレス、バーン アウト

区分名：人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：生活と科学（Human Life and Environmental Sciences）

教員名：立柳聡

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：日本人の生活のあり方を基礎付けたものとは何か、それに根ざして日々の生活の中で育まれてきた日本人の様々な生活知に注目し、その背景やそれらが生み出した生活の特色とみられることを探究していく。

学習目標：

一般目標；1）日本人の生活の特色を生み出してきたものとは何か、わかるようになる。  
2）文化や社会のあり方と生活、健康、病気、障がいとの関わりがわかるようになる。

行動目標；1）農業、特に、穀物の栽培が、一般にどんな特色を有する文化や社会を生み出すか、理解できる。

2）日本人の死生観、生命観、人生観、病気観、障がい観が、どのような背景の下に形成され、特色を有するか、理解できる。

3）生活の諸側面、特に、食生活のあり方と健康との相関を考察できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		



2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：必要に応じ、順次、プリントを配布します。

参考書：講義を踏まえ、適時、紹介していきます。

成績評価方法：

- 1) 出席状況、フィードバックペーパーとレポートの内容、各種の減点によって、総合的に判定します。詳細は開講時に説明します。
- 2) 欠席は原則として認めません。欠席された場合は、その日の講義の要点をまとめた自己学習報告書を所定の日までに提出していただきます。万一未提出となった場合は、減

点とします。なお、内容に問題がある場合は、必要に応じ、個別の呼び出しをさせていただきます、問題点の指導に当たります。

- 3) 科目担当者の判断として、レポートの再提出の機会は設けません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングと思ってほしいと期待です。
- 4) 万一、不合格となった場合は、11月に特設講座を開設し、再履修していただきます。ゼミナールかチュートリアルで鍛えます。その上でレポートを提出していただき、12月に成果を評価し、合否判定を行います。それでも不合格となった場合は、1月より改めて特設講座を開設して、最履修していただきます。その上でレポートを提出していただき、2月に成果を評価し、合否判定を行います。なお、これをもってラストチャンスといたします。
- 5) その他、諸々の詳細は、開講時に説明します。

その他（メッセージ等）：

- 1) 回りの様子見＝主体性を欠いた発言・判断・行動、並びに、気楽、安易、暢気な態度には厳しく措置します。
- 2) 命に向き合うに相応しい人間のあり方に常にこだわり、講座の運営に当たります。私語、授業中の中抜けなどの迷惑行為に対しては、厳しく措置します。
- 3) 部活の都合は一切考慮しません。
- 4) この科目は必修科目です。不合格になると留年（2年生に進級できないこと）になりますので、十二分に心して合格、単位取得を目指してください。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	日本人の生活の基盤を築いた生業	農業の始まり、穀類の栽培がもたらしたもの： 文化、生活知とはどのようなものか？生活知の凝縮とも言うべき代表的な年中行事を例に、日本人の生活の仕方に潜むこだわりやその背景をあぶりだす作業の触りをご紹介します、本講座において求められる基調となる思考についてご紹介します。
第2回	農耕文化の一般的特色	定住・食料保存・時間的規則性： 日本人の生活知の多くが農業に由来していることを明らかにすると共に、世界の農耕文化に一般にみられる特色をご紹介します。
第3回	農耕社会の一般的特色	互助協同・分業・階層化： 農業を生業とする人々の社会にみられる特色とはどのようなものか、ご紹介していきます。

第4回	日本人の自然観1	時・空間の捉え方： 日本人は、日々の生活の時間や場面をどのように規則的に捉えてきたかを講じます。
第5回	日本人の自然観2	人生観・死生観・子ども観： 日々の生活の時間や場面の捉え方が、生命の捉え方にも大きな影響を与えているとみられることを講じます。
第6回	日本人の自然観3	植物観： 日本人は生活知としてどのような生命観を築いてきたのか、それを考える第一歩として、身近な植物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第7回	日本人の自然観3-2	動物観： 前回の続編として、日本人は身近な動物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第8回	日本人の人間観	障害者観・病気観： 日本人は、生活知として人間や病気、健康をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを、障がいを負った人たちに対する捉え方を例に講じます。

区分名： 人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：女性学（Women's Studies）

教員名： 高橋 準

開講年次：1年次，学期：2018年度前期，必修／選択：選択（助産師履修者は必修）

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：

わたしたちは、自分が「女性であること」「男性であること」を、この二分法も含めて、固定的で本質的なものとして、疑いをさしはさまないことが多い。しかし実際は、ひとが女性もしくは男性になる／であるためには、発生的にはもちろん、制度的にも社会的にもさまざまなプロセスを経る必要がある。

本講義では、〈性〉を構成する要素について知るとともに、わたしたちが性別を持つ存在であることで受けるさまざまな制約と、豊かな可能性について検討する。その際、知識を身につけるとともに、問題を発見し、考察する力を養うことを目指す。

学習目標：

- 1) 〈性〉を構成する諸相について知る。
- 2) 社会・文化の中での〈性〉の諸相と、関連する社会問題について理解する。
- 3) 日常的に触れる機会があるメディアの表象等を批判的に解釈できる。
- 4) 将来の職業経験の中で、〈性〉と、その多様性をどのように位置づけるかを考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		位認定の要件である。
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単
		②	人間の理解を深める科目		



		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要件である。
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：高橋準、『ジェンダー学への道案内（四訂版）』、北樹出版、2014年。

参考書：講義中に指示する。

成績評価方法：修了後の試験と、各回のコメントカードを総合して判断する。

その他（メッセージ等）：集中講義形式で、短期間で広い範囲の内容に触れるので、あらかじめテキストの第1章、第3章、第5章、第6章に目を通しておいてください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ジェンダーの概念	公共芸術、ジェンダー、セクシュアリティ
第2回	ジェンダーと性差別	セクシズム／ジェンダリズム、メディア
第3回	労働と家族	性別職務分離、賃金、家事労働。ワークライフバランス
第4回	〈性〉の多様性（1）	セクシュアリティ、ジェンダー・アイデンティティ
第5回	〈性〉の多様性（2）	セクシュアル・マイノリティ
第6回	〈性〉の多様性（3）	婚姻／パートナーシップ、社会制度
第7回	〈性〉の多様性（4）	医療・看護とセクシュアル・マイノリティ
第8回	災害と〈性〉	災害脆弱性

区分名：倫理性を高める

科目名（英語名称含む）：倫理学（Ethics）

教員名：福田俊章

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期，必修／選択：選択必修

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：

1. 古来より、「いかに生きるべきか」という道德の問いは人間の最も基本的な関心事のひとつであった。倫理学はこの問いを哲学的な議論の土俵で取り扱おうとする。道德の問題に出来合いの答はないにしても、しかし人間なら誰もがこの問いについて考えることが出来る。この授業では、各人がみずから主体的に道德上の問題を考えるにあたって、その公共的な基盤となるべきものを提供したいと考えている。人はお互いに議論の土俵を共有し合いつつ、それぞれの思索を深めて行くべきものだからである。

2. 「人間は政治的な動物（political animal）である」（アリストテレス）という有名な言葉は、そもそも「人間はポリス（polis 都市国家）に生きる動物である」ということを意味していた。人間は共同体を作り、社会に生きる動物なのである。倫理学（ethics）という学問もまた、本来はそうした社会に生きる人間の住み習わし方（ethos）についての学であった。この授業では、人間と社会との関わりの中で生じる様々な倫理的諸問題を取り扱いながら、西欧の倫理学が道德的規範の本質についてどのように考えて来たのかを共に考えたい。

学習目標：

《一般目標》

道德的問題について、人はしばしば自分なりの直観的解答をもっている。だが、その答を当然視しているだけでは、未だ道德について考えていることにはならない。「どうして自分はそう思うのか」という理由（根拠）をはっきりさせようとする中で、「自分の頭で考える」ことが始まる。倫理学とは、こうした日常的な道德的観念に対する批判的反省である。「当たり前だと思ふことを考え直す」という問題意識に触れることによって、倫理的な思索態度を身につけたい。

《行動目標》

#### 1 倫理理論の二類型——規範と価値

(1) 善意からする嘘をめぐるカントとコンスタンの見解の根本的相違がどこにあるのか考えられる。

(2) 倫理理論を類型化すれば、例えばどんな分類があるのか言える。

#### 2 義務論的な倫理学——カント倫理学

(1) カントが何をもって道德的行為の特質とみなしたか言える。

(2) 規則の普遍化可能性が行為の道德的評価基準としてどこまで有効と考えられる。

(3) カント倫理学において幸福の問題が最終的にいかなる形で処理されているか言える。

### 3 帰結（結果）主義的な倫理学——功利主義

(1) 功利主義の基本的主張が何であるか言える。

(2) ベンサムやミルがいかなる問題意識から功利主義を立てたのか言える。

(3) 功利主義にも様々な問題点が潜んでいることが判る。

4 総じて、こうしたことをいくら知っていても倫理的に高潔な人間になれるわけではないことが判る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		



2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特定の教科書は用いない。

参考書：

澤和久・馬淵浩二編『倫理学の地図』ナカニシヤ出版、2010年

バジューニ、フォスル／長滝、廣瀬（訳）『倫理学の道具箱』共立出版、2012年

成績評価方法：授業への参画態度に加えて、レポートあるいは論述式の筆記試験を学期末に課すこととしたい。

その他（メッセージ等）：以前は選択科目として医学部との共通授業だった倫理学も、今は看護学部生だけを対象とした必修科目となりました。回数が半減したために端折った内容になりますが、その分これまで以上に密度の濃い授業を心がけたいと思います。学生の皆さんも欠席せずに出席されることを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	導入、倫理理論の二類型	倫理理論の二類型、規範と価値
第2回	カントの倫理学(1)	幸福が道徳の原理にならないとされる理由、 普遍化可能な格率にもとづいた行為
第3回	カントの倫理学(2)	規則の普遍化可能性、義務の特定
第4回	カントの倫理学(3)	人間の自由と価値、最高善と正義の実現

第5回	功利主義の倫理学(1)	功利主義の概略、利己主義と功利主義
第6回	功利主義の倫理学(2)	功利主義の思想家たち (ベンサム、J. S. ミル)
第7回	功利主義の倫理学(3)	功利主義の問題点(原理の非単一性、正義の保証不可能性)
第8回	功利主義の倫理学(4)	功利主義の問題点 (幸福の計算不可能性、人間的側面の軽視、道徳的動機の説明困難)、全体のまとめ

区分名：論理的思考力を培う

科目名（英語名称含む）：統計学（Biostatistics）

教員名：後藤あや、(医) 中野裕紀、石井佳世子、(医) 村上道夫

開講年次：1年次，学期：2018年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：

統計学の講義は、情報学演習（1年後期）および疫学（2年前期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。ここでエビデンスとは、数値だけではなく、人々の声（文章）のデータも含まれます。

統計学の講義では、データを収集する調査デザインと、収集したデータを分析し提示、さらには結果を読み取るための基礎的な知識を学びます。基礎的な机上の勉強と捉えられがちですが、統計学は非常に実用的であり、保健医療の実務で必ず使う実践技術です。

学習目標：

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための基礎的な知識と技術を身につける。

具体的目標

1. 統計と疫学の役割を概説できる。
2. 調査の流れを説明できる。
3. 質的データと量的データの違いを説明できる。
4. データを収集する主な調査デザインについて概説できる。
5. 母集団と標本について説明できる。
6. データ管理のポイントを説明できる。
7. 主な代表値について説明できる。
8. 図表の特徴について説明できる。
9. パラメトリックとノンパラメトリックの違いを説明できる。
10. カイ二乗検定とt検定について説明できる。
11. 論文の基本的なデータを読める。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	<del>人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。</del>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	<del>人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。</del>		

		<p>③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。</p> <p>④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。</p> <p>⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。</p> <p>⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。</p> <p>⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。</p> <p>⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。</p>		
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	<p>① 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。</p> <p>② 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。</p>	—	修得の機会がない。
2)	福島の災害から学ぶ	<p>① 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。</p> <p>② 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。</p> <p>③ 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス</p>	—	修得の機会がない。

			コミュニケーションについて説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	<del>看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。</del>	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

テキスト：

横川博英（監）、藤林和俊（著）. 看護研究をはじめのための統計と臨床疫学. 学研メディカル秀潤社.

参考書：

中村好一. やさしい統計学入門. 診断と治療社.  
中寫洋. 初学者のための質的研究 26 の教え. 医学書院.

成績評価方法：

試験（70%）と出席・提出物（30%）により総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：

シリーズとしている3つの講義・演習どれにおいても、グループ演習への積極的な参加を求めます。講義を聞くだけでなく、自分で考え、使うことで、知識と技術は定着します。

特別講師（予定）：伊藤慎也（北里大学）

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
1, 2	統計の役割、データの面白さ、調査の流れ、データの種類 演習：図表の解釈	統計、疫学、質的データ、量的データ、カテゴリーデータ、順序データ、数量データ
3, 4	調査デザイン、サンプリング 演習：デザインの選択	地域相関研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究、質的研究、母集団、標本



5, 6	データ管理、代表値、図表、 横断研究とクロス集計 演習：図表の解釈、スマホで分析	正規分布、平均値(標準偏差)、中央値(最小、最大)、最頻値、表、棒グラフ、線グラフ、ヒストグラム、箱ひげ図、検定、推定、クロス集計、p 値、95%信頼区間、カイ二乗検定
7, 8	平均値の比較、相関と回帰 演習：スマホで分析、復習	帰無仮説、パラメトリック、ノンパラメトリック、t 検定、相関、回帰
9, 10	事業評価の実践 演習：スマホで分析	
11, 12, 13, 14	医療情報学 演習：医療情報演習	
15	総復習	

区分名：論理的思考力を培う

科目名（英語名称含む）：自然科学（生物学）(Natural Sciences (Biology))

教員名：松岡有樹，五十嵐城太郎，西山学即

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：

多様な生命現象の根底に存在する共通原理について、物質・エネルギー・情報の3つの観点から学習することによって、生命科学の基礎を統一的に理解する。

学習目標：

(1)生命の多様性と共通性について概説できる。(2)原核生物と真核生物の特徴を説明できる。(3)種々の細胞内小器官の構造と機能について説明できる。(4)細胞の観察法を理解し、その全体像を図示できる。(5)体細胞分裂および減数分裂の過程を図示し、説明できる。(6)生殖の方法と遺伝的多様性について説明できる。(7)染色体の構造と機能を概説し、その挙動について説明できる。(8)DNAの複製、転写の仕組みとタンパク質の合成が説明できる。(9)糖、タンパク質、脂質、核酸の性質・代謝について概説できる。(10)ヘモグロビンの酸素解離曲線について概説できる。(11)酵素の構造と機能について説明できる。(12)酸化的リン酸化によるATPの産生及びATPの加水分解に伴うエネルギーの放出を説明できる。(13)恒常性の維持について説明できる。(14)生体防御についてその機構を理解し、説明できる。(15)生命の多様性について進化の観点から説明ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	習得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	習得の機会がない

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	習得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	習得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	習得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	習得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	習得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
<p>看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。</p>					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：Cambell, N. 「キャンベル生物学」丸善出版

Albetts, B.ほか「Essential 細胞生物学」南江堂

木下 勉ほか「ZERO からの生命科学」南山堂

成績評価方法：出席状況と筆記試験および提出物(レポート、スケッチ)により総合判定する。

その他 (メッセージ等)：生物学は看護学を学ぶ上でもっとも重要な基礎となります。皆さ

んの積極的な参加を期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	生物学概論(松岡)	生命とは何か、多様性と共通性
第2回	細胞の構造と機能(西山)	細胞内小器官
第3回	顕微鏡実習(松岡)	顕微鏡の構造、原理、操作法
第4回	顕微鏡実習(松岡)	哺乳類の卵巣・精巣の構造と機能
第5回	細胞分裂(西山)	減数分裂、精子形成、卵形成
第6回	受精と発生(西山)	初期発生、器官形成
第7回	遺伝子の本体(五十嵐)	DNA、RNA、二重らせん
第8回	遺伝子の複製と発現(五十嵐)	複製、転写、翻訳
第9回	生体を構成する物質(五十嵐)	水、脂質、核酸、炭水化物、タンパク質
第10回	酸素運搬タンパク質(松岡)	ヘモグロビン、酸素解離曲線
第11回	酵素反応(五十嵐)	基質特異性、ミカエリス・メンテン式
第12回	細胞内のエネルギー変換と物質代謝(五十嵐)	糖代謝、好気呼吸、嫌気呼吸、光合成、ATP
第13回	恒常性(西山)	ホルモン、自律神経
第14回	免疫(西山)	抗体、細胞性免疫、体液性免疫
第15回	生物の多様性と進化(松岡)	生物の分類、進化論の歴史、分子進化

区分名： 論理的思考を培う

科目名（英語名称含む）： 数学（Mathematics）

教員名： 岡田達也

開講年次： 1年次，学 期：2018年度 前期 ，必修/選択： 選択

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：本講義の目的は2つある。1つは必修科目である「統計学」、「医療統計学」への橋渡しである。統計学は看護学にとどまらずあらゆる科学分野の基盤として重要であり、高等学校の課程でも数学Ⅰにおいて「データの分析」、数学Ⅱにおいて「確率分布と統計的な推測」を学ぶことになっている。しかし、「統計的な推測」に関しては入試に課す大学が少ない等の理由で十分な学習がなされていないのが実情と思われる。ここでは、本来高等学校で修習すべき統計学の基礎を学びなおす。

もう一つは数理的、論理的な思考に親しむことである。数学はその概念や論理を明確かつ簡潔に表すため、式や記号が多用される。このため、ややもすると暗記科目として取り組みがちになり、実際そういう学習法で失敗する学生が多い。数式や記号は実際に起こっていることを記述しているだけであり、それらを道具として状況・条件を整理し、組み立てて、筋道を立てて考えるという「論理的思考」こそが重要である。本講義では数学のさまざまなテーマを題材として、なぜ？ どうして？ と自問しながら、論理的かつ批判的に思考する能力を養う。

学習目標：

- (1) 高等学校で学習した数学の知識を発展させ、看護の分野で活用できる能力を身につける。
- (2) 大学で学ぶ統計学を理解するのに必要な基礎学力と応用力を習得する。
- (3) 数学的思考・考察を積極的に活用する態度を身につける。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		



2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：必要に応じてプリントを配布する。

参考書：石村園子 著「すぐわかる確率・統計」東京図書

石村貞夫 その他 著「看護系学生のためのやさしい統計学」共立出版

成績評価方法：授業の評価は、試験の得点、平常点・レポート評価点で判定される。

その他(メッセージ等)：本学部の教育目標のひとつに「さまざまな事象や現象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる」とある。本講義を通してこの目標に一步でも近づいて頂きたい。しかし、そのためには単に講義を聴講するという受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に参加して、数学する(思考する)という態度で講義に臨んで頂きたい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	数の広がり 1	0の発明、有理数と無理数
第2回	数の広がり 2	黄金比とフィボナッチ数列
第3回	集合と論理 1	ドモルガンの法則、命題
第4回	集合と論理 2	推論、命題関数
第5回	場合の数	順列・組合せ
第6回	有限と無限	濃度、可算集合、非可算集合
第7回	確率の概念 1	標本空間、数学的確率、経験的確率、公理的確率の定義
第8回	確率の概念 2	条件付き確率、加法定理、乗法定理
第9回	確率の概念 3	事象の独立、ベイズの定理
第10回	確率分布 1	確率変数、確率密度関数、分布関数
第11回	確率分布 2	期待値、分散、チェビシェフの不等式
第12回	確率分布 3	2項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布
第13回	2次元確率分布 1	同時確率分布
第14回	2次元確率分布 2	共分散、相関係数、正規分布の再生性
第15回	中心極限定理	ド・モアブループラスの定理、中心極限定理

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：文学（literature）

教員名：澤 正宏

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期 ， 選択：

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：日本の近代から現代にかけての文学の流れや、代表的な文学作品（主に小説、詩歌）を学ぶことによって、歴史的・文化的な背景を理解し、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力、感性を養います。また、講義のなかでは、何回かは文学と医学との接点の問題も扱います。

学習目標：明治時代以降の文学作品を具体的に理解することで、近代以降の歴史や文化といった時代背景への知識を深めながら、作品の成立事情、構想、芸術性、文化的な価値などの理解をとおして、文学における深い人間洞察が体得できるようにする。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位

					認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会が無い

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が無い



	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない（講義者が作成した資料を使用する）。

参考書：講義の都度、提示する。

成績評価方法：講義での出席、感想発表、参加態度（意見など）と、前期試験により評価。

その他（メッセージ等）：講義への積極的な参加（意見、感想など）を期待する。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	学ぶことの意味 文化の集積
第2回	森鷗外「高瀬舟」	足るを知る 安楽死 オオソリティー
第3回	芥川龍之介「歯車」	芸術至上主義 地獄 関係妄想

第4回	宮澤賢治の童話	食物連鎖 生きることと殺生
第5回	近代文学から現代文学	主知主義の文学 労働者の文学 現代都市の出現
第6回	ハンセン病の文学	隔離政策 ワゼクトミー 差別
第7回	原爆被災の文学	死者 共感
第8回	戦後文学（主題など）	戦後社会の二重構造 高度資本主義経済

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：音楽（Music）

教員名：高橋 裕之

開講年次：1年次，学期：2018年度 集中，必修/選択：選択

授業形態：講義実習，単位数：2単位，時間数：30時間

概要：

日本において一般的に音楽とされるものは、西洋音楽のシステム（音階や拍節法など）を基盤に成り立っています。これまで学校教育の中で経験してきた音楽の源流とは何でしょうか。それは西洋（ヨーロッパ）の音楽なのです。皆さんが学んできた学校の音楽室には当たり前のようにピアノがおいてあったでしょう。それがその証拠です。本講義ではこうした西洋音楽を中心に音楽的見識を広めるとともに、実際にいくつかの楽器を演奏して音楽に親しんでいただきます。まず、名作と呼ばれる音楽作品の鑑賞を通じて、西洋音楽に対する理解の裾野を広げていきましょう。次に、歌唱、リコーダー（アンサンブル）、ボディーパーカッションなどの実演を通じて自身で音楽を表現することの喜びを味わいます。ゲストには、日本伝統音楽の演奏家を招く予定です。（スケジュールの都合で実施できない場合があります）

学習目標：

一般目標

「鑑賞」と「実演」これら二つの柱を通じて、感性を磨くと共に、音楽をする際に最も重要な『聴く』という行為を再認識したい。積極的に音楽を『聴く』。この行為は、コミュニケーションスキルで最も重要な『聞く』行為を鍛えることも目標にしたい。

学習目標：1）音楽的知識や見識を広めることで教養を高めることができる。

2）表現する楽しみを得ることができる。

3）能動的に音楽を『聴く』ことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	— 修得の機会がない

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		③	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		④	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		⑤	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑥	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑦	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑧	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑨	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					



1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特定のテキストは使用しない。講義中に配布するプリントや楽譜にて。

参考書：特定の参考書は使用しない。参考文献については講義中に指示。

成績評価方法：出席、レポート（鑑賞の感想含む）、講義内容の理解と実演への関わり方など総合的に評価する。

その他：

①ソプラノ・アルトリコーダーどちらか一方を所持していることが望ましい。無い方は、初回講義で相談してください。

②使用教室やゲストの都合により講義内容が前後することがある。

教員から学生へメッセージ：音楽を楽しみ、共に感性を磨きましょう。音楽が好きという気持ちがあれば実習が苦手な人でも歓迎します。（使用教室の都合などにより内容が前後する場合があります。その場合、予め連絡します。）

授業内容(学習項目)

夏期 集中講義で2日間・冬期2日間 計4日間

数	項目	内容（キーワード等）	
夏 期 集 中	第1回	ガイダンス 音楽＝西洋音楽？	講義の進め方 評価 日本における音楽とは？
	第2回	西洋音楽とは？～名曲とともに歴史を辿る～	クラシック音楽の魅力や黒歴史？を知る
	第3回	リコーダー アンサンブル（1）-1	様々な楽曲を演奏してみる
	第4回	リコーダー アンサンブル（1）-2	アンサンブルとは何だろう 表現することとは？
	第5回	オペラ（1）-1 ～オペラを楽しむ～【鑑賞】	オペラの歴史と魅力について
	第6回	オペラ（1）-2 ～オペラを楽しむ～【鑑賞】	オペラ制作を通じて組織について考える
	第7回	ボディーパーカッション（1）	ボディーパーカッションを楽しもう
	第8回	ハンドベル（1）	ハンドベルを楽しもう
冬 期	第9回	オペラ（2）～オペレッタを楽しむ～【鑑賞】	オペレッタの魅力について
	第10回	ハンドベル（2）	ハンドベルを楽しみ 発表をしてみよう
	第11回	日本音楽《特別講師》【鑑賞】	ゲスト 箏奏者による生演奏

	第12回	ポピュラー音楽とクラシック音楽	クラシック音楽がポピュラー音楽にもたらしたもの
冬 期	第13回	アンサンブル(2)-1	リコーダー・ハンドベル・ボディーパーカッション を駆使して一つの作品を作り上げよう
	第14回	アンサンブル(2)-2	ミニコンサート
	第15回	本当に音楽には国境がないのか?	西洋音楽という視点から異文化理解について考える

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：体育Ⅱ（Physical EducationⅡ）

教員名：杉浦弘一

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期，必修／選択：選択

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：

運動（スポーツ）やトレーニングは適切に行えば身体に良い影響をもたらすが、不適切な方法で行えば悪影響を及ぼすこともある。本講義では、運動（スポーツ）を行っている時に身体でどのようなことが起きているのか、運動（スポーツ）をどのように実践していけばいいのかなど、運動が身体に及ぼす効果（影響）や運動の方法について概説する。

学習目標：

<一般目標>

人間が運動やスポーツを実践することができる仕組みについて理解するとともに、運動やスポーツが身体に与える効果（影響）について理解できる。

<行動目標>

運動（スポーツ）や身体活動がもたらすメリット・デメリットを理解し、実践する基礎を作る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：なし（必要な資料は事業時に配布する）

参考書：「運動生理学」「スポーツ医学」関係の書籍など

成績評価方法：筆記試験、出席状況、授業への取組みなどにより総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：授業への積極的な参加を必須とします。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	運動が身体に及ぼす影	運動が身体に及ぼす効果および影響について概説

	響	
第2回	運動時の身体の働き	身体を動かすメカニズムについて概説
第3回	運動プログラムの基本的原理・原則	運動プログラムを作成する（運動を実施する）時の基本原則について概説
第4回	暑熱環境下での運動と水分補給	暑熱環境下での運動時に考えるべき点と、水分補給について概説
第5回	運動と疲労・疲労回復	運動による疲労のメカニズムと疲労回復の方法について概説
第6回	運動と生体防御機構	運動が生体防御機構に及ぼす影響について概説
第7回	体格と運動処方	体脂肪量・除脂肪体重を基にした体格の分類方法とそれに応じた運動の考え方について概説
第8回	試験	



区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：社会と医療・福祉・保健

(Society, health care, welfare and health)

教員名：柴田邦昭

開講年次：1年次，学期：2018年度 後期 ，必修/選択：必修

授業形態：講義演習実習 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：社会福祉の基本は、国民一人一人が抱える具体的な生活課題に対し、国民の生活と健康を保証するための支援と指示にあたることである。本講では社会福祉の原理・原則・体制などの社会福祉原論と様々な福祉制度・システムを学びます。

- 学習目標：1) 社会福祉の理念と基礎知識や制度的知識を習得する。  
2) 社会福祉を推進させるための資源や様々な連携を理解する。  
3) 生活者の福祉問題の現状と課題を理解する。  
4) 社会福祉に関する事項を的確に整理することができ、自分なりの見解を記述することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	－	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： テキストはなく講義資料を配布する。

参考書： 適時指示する

成績評価方法： 試験により評価します。

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	社会福祉の意味と概念	地域社会での福祉課題と生存権、幸福追求権等
第2回	社会福祉の思想と原理	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等
第3回	社会福祉の歴史	現代福祉に通ずる歴史的事項
第4回	現代の社会福祉の動向と課題	少子高齢化・他問題家族・生活困窮 等 権利擁護、サービスの質の向上
第5回	社会福祉従事者の価値と倫理	社会福祉士の倫理綱領の概観
第6回	福祉対象者の権利擁護1	虐待防止法の種類と実際
第7回	福祉対象者の権利擁護2	日常生活自立支援事業と成年後見制度、具体的事例による演習
第8回	社会福祉の援助方法	直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術
第9回	民間の福祉推進組織の実際	社会福祉協議会、ボランティア・NPO活動の原理と実際
第10回	各種福祉団体と民生委員・児童委員	福祉団体の概略と民生委員・児童委員活動についての理解
第11回	高齢者社会の現状	高齢社会、高齢者施設、介護保険制度 等
第12回	障害児・者を取り巻く現状	障害の概念、障害者の自立・就労支援 障害者施設、障害者総合支援法 等
第13回	児童を取り巻く現状	少子化社会、児童福祉施設、子育て支援、虐待、非行問題 等
第14回	災害と福祉	被災者支援、防災
第15回	福祉のまちづくり 医療・保健・福祉の連携	ユニバーサルデザイン、バリアフリー 地域医療、地域保健、ネットワーク

区分名：

科目名（英語名称含む）：人体解剖生理学Ⅰ（Human anatomy and physiologyⅠ）

教員名： 本多たかし

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ， 単位数：3単位 ， 時間数：60時間

概要：正常な人体の構造と機能を理解する。

学習目標：

- ① 人体の基本構造を理解する。
- ② 骨の構造と機能を理解する。
- ③ 骨格筋の構造と機能を理解する。
- ④ 消化管の構造と機能を理解する。
- ⑤ 消化腺の構造と機能を理解する。
- ⑥ 心臓の構造と機能を理解する。
- ⑦ 血管の構造と機能を理解する。
- ⑧ 呼吸器の構造と機能を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		



			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特に指定しない。講義資料を Web 資料として配布する。

参考書：講義中に提示する。

成績評価方法：試験期間中に実施する筆記試験、随時実施するレポートを等分に評価する。

その他（メッセージ等）：理由の如何によらず、欠席は認めない。欠席した場合には当日の講義の主題に関するレポートを提出し、判定を受けること。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	生命の定義、細胞、組織、器官、器官系、体液
第2回	人体の基本構造	頭頸部、体幹、胸部、背部、腹部、腰部、四肢
第3回	骨と骨格	骨細胞、骨組織、全身の骨格
第4回	骨格筋	横紋筋細胞、収縮タンパク質、全身の筋肉
第5回	心臓の構造と機能	心房、心室、心外膜、心嚢、房室弁、動脈弁
第6回	心臓の働き	心機能曲線、左室圧容量曲線、心電図
第7回	血管の構造と機能	動脈、毛細血管、静脈、血管透過性、血圧

第8回	呼吸	肺、胸膜、胸腔、鼻、喉頭、気管、気管支、ガス交換
-----	----	--------------------------

区分名：人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：生化学（Biochemistry）

教員名：森 努

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：システムとしての人体を構成する物質の構造と相互作用を理解し、看護の現場において病態生理を把握する際に必要となる生化学の基礎知識を習得する。

学習目標：1) 遺伝子の機能・構造と、その異常に伴う疾患の成り立ちを説明できる。

2) 生体物質の構造・機能と代謝調節、およびその異常に伴う疾患の病態生理を説明できる。

3) ホルモンの種類と機能を学習し、内分泌疾患の成立機序を説明できる。

4) 悪性腫瘍の発症機序と治療手段について理解できる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	〃

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	"
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない



		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	<del>看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。</del>	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：系統看護学講座（医学書院） 人体の構造と機能〔2〕生化学

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：定期試験結果・レポートを総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：生化学は現代医学の中心領域です。生化学の視点を持つことは、現場で日常的に見かける生活習慣病や悪性腫瘍を理解するために必要です。要点を押さえた効率的な勉強を心がけて下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	生化学総論	遺伝子・細胞・細胞内小器官・生体物質
第2回	糖質	糖質の種類・単糖・二糖・多糖
第3回	脂質	脂質の種類・脂質各論・リポタンパク
第4回	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の構造・機能
第5回	核酸	ヌクレオチド・DNA・RNA
第6回	水と無機質	水の出納・無機質の分類

第7回	血液と尿	酸塩基平衡・血液と尿
第8回	ホルモン	ホルモンとは・ホルモンの種類と作用・内分泌疾患
第9回	糖質代謝	糖質の消化吸収、解糖系・糖新生・グリコーゲン代謝
第10回	脂質代謝	脂質の消化吸収、中性脂肪・コレステロール
第11回	タンパク質代謝	タンパクとアミノ酸の消化吸収, アミノ酸利用経路
第12回	核酸・ヘム代謝	核酸とヘムの代謝と異常
第13回	代謝異常	糖尿病・高脂血症・痛風
第14回	遺伝子とその異常	複製・転写・翻訳・DNA損傷と修復・先天性代謝異常
第15回	悪性腫瘍	癌の分子生物学・細胞周期

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）： 看護学の基本 I （ Basics of nursing I ）

教員名： 木下美佐子

開講年次： 1年次，学 期： 2018年度 前期 ， 必修/選択： 必修

授業形態： 講義 ， 単位数： 2単位 ， 時間数： 30時間

概要：看護学の導入として、また専門領域を学ぶ上での土台となる科目である。ここでは、看護の責務、看護の歴史、看護理論、看護の対象など様々な角度から看護を考え、理解を深め、看護職の将来を展望し、社会に求められる専門職としての看護について、グループワークやポートフォリオ、パフォーマンス課題を用いて学習する。

学習目標：看護学の概要を理解し、専門職としての看護についての理解を深める。

行動目標

1. 看護の概念、定義、看護の対象について理解する。
2. 看護の責務について法的側面から理解する。
3. 看護の歴史の変遷と看護理論について理解する。
4. 看護職の将来を展望し、社会が求める看護について考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である

					に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣スキル示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣スキル示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣スキル示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
<p>看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。</p>					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：志自岐康子他著：ナーシング・グラフィカ基礎看護学① 看護学概論第6版、  
メデイカ出版

参考書：F.ナイチンゲール著、湯槇ます他訳：看護覚え書き第7版、現代社  
ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます他訳：看護の基本となるもの、日本看護協会  
出版会

その他授業内で紹介します。

成績評価方法：筆記試験、授業の出席状況と授業の参加態度、パフォーマンス課題を総合  
して評価します。

その他（メッセージ等）： 看護の歴史、看護理論、看護の魅力、看護が社会から期待され  
ていることを理解することで、看護学を学ぶ事の意識を高めて  
欲しいと思っています。

#### 授業内容(学習項目)

回	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	これから看護を学ぶことについて
2	看護の誕生と発展	看護の誕生～近代～現代までの看護
3	日本における看護の変遷	日本における現代までの看護の歴史
4	看護の対象、看護の主要概念	統合体としての人間理解と看護の定義、基本的責務
5	ライフサイクルと健康	健康の概念、マズローの欲求階層、発達課題
6	看護理論の理解(1)	看護実践事例を提示し、
7	看護理論の理解(2)	実践と理論の関係について、
8	看護理論の理解(3)	グループワーク、
9	看護理論の理解(4)	プレゼンテーションを行い理解を深める F.ナイチンゲール、V.ヘンダーソン、ペプロウ、オム、トラベルビー
10	看護の役割	看護の具体的役割と機能について
11	看護の法的側面	保助看法、看護関連法規
12	保健・医療福祉の概念と看護	保健・医療・福祉サービスの内容
13	職業としての看護と教育	看護教育体制、専門・認定看護師、特定看護師
14	専門職としての看護	国際看護・災害看護の概念、これからの看護の課題
15	看護の基本Iのまとめ	パフォーマンス課題の発表と講義のまとめ



区分名： 看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：コミュニケーションに関する技術（ Communication skills ）

教員名： 堀内 輝子

開講年次： 1年次，学 期：2018年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：コミュニケーションは、看護を实践する上での土台となる。一方、コミュニケーションは、日常生活において欠かせないものであり、成長の過程において個々人がそれぞれのコミュニケーションの方法を身につけている。本科目においては、コミュニケーションの中でも対人コミュニケーションに重点を置き、その構成要素や特徴に関する基礎的知識を学ぶ。また、グループワークを通して個々人が培ってきた日常のコミュニケーションを振り返る。さらに、看護職者に求められるコミュニケーションの前提となる観察技術を使いながら、援助的人間関係について学ぶ。

学習目標：

【一般目標】

看護者が対象との間に援助的人間関係を形成することの重要性を理解する。また、他者理解の前提となる自己への理解を深めるとともに、他者との関係形成にとって望ましいコミュニケーションスキルを学習する。

【行動目標】

1. 援助的人間関係を形成するための手段としてのコミュニケーションスキルについて学習する。
2. 援助的人間関係の基盤となる学生自身の人間関係の形成について演習を通して振り返る。
3. 演習を通して日頃の他者に対する自己の在り方と対峙することを通して、看護において自己対峙の必要性を理解する。
4. 看護において対象との援助的人間関係の形成が極めて重要となることを理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	－ 修得の機会が無い
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会が無い
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度・スキルを示せることが単位
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		認定の条件である。
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の条件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	④のみ ○	基盤となる態度・スキルを示せることが単位
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		認定の条件である。
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が無い
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特に無

【参考書】

斉藤孝著：読書力

西村ユミ著：語りかける身体 看護ケアの現象学

平澤久一監修：表情看護のすすめ 患者の思い・心を読み取る

平木典子 他著：ナースのためのアサーション

成績評価方法：筆記試験（50％）授業への参加態度・出席状況（30％）、課題提出等（20％）を総合して評価します。

その他（メッセージ等）：

私達は毎日の生活の中で、様々な対象と様々な形でコミュニケーションをとっています。中でもパーソナルコミュニケーションは、双方向的であることが重要であり、授業もその1つです。私と皆さんの間に、そして学生の皆さん同士で積極的なコミュニケーションを図りながら、授業を創りましょう

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	コースガイダンス コミュニケーションの 基礎1	・科目の概要，講義の進め方・学び方，評価について ・今考えるコミュニケーションの定義 ・自己紹介を通じたコミュニケーション ・言語の大切さと落とし穴
第2回	コミュニケーションの 基礎2	・話し言葉と書き言葉 ・パーソナルコミュニケーションとインターパーソナルコミュニケーション
第3回	言語的コミュニケーション	・言葉の種類・特徴・機能について ・言語的コミュニケーションの特徴・限界・意味
第4回	非言語的コミュニケーション1	・非言語的コミュニケーションの種類・特徴・機能について
第5回	非言語的コミュニケーション2	・観察の意味 ・身体が表すコミュニケーションの意味
第6回	他者を理解する1	・観察の技術を使い、他者の表情，身体の表す意味を理解する
第7回	他者を理解する2	・他者の話す内容の傾聴，共感，受容する技術を体験する
第8回	自己を表出する	・自己開示・自己呈示とは
第9回	自己を理解する	・自己一致，ジョハリの窓の意味
第10回	Let'sカンファランス	・カンファランスの進め方 ・カンファランスの体験
第11回	アサーション1	・自己の尊重，他者の尊重，自己肯定感

第 12 回	アサーショントレーニング	・事例を用いたアサーショントレーニング
第 13 回	事例を用いた援助的人間関係の分析 1	・事例の検討
第 14 回	事例を用いた援助的人間関係の分析 2	・事例の検討と発表に向けた準備
第 15 回	まとめ	・グループ発表と振りかえり ・コミュニケーションの定義

区分名：

科目名（英語名称含む）： 看護実践を支える看護技術とアセスメント I（Nursing skills and assessment as the foundation nursing practice I）

教員名：川島理恵 丸山育子 田中啓子 林紋美

開講年次：1年次，学 期：2018年度 通年 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。

学習目標：

1. 看護における看護技術の重要性について説明できる。
2. 人間の活動と休息の意義について説明できる。
3. 基本的な環境調整の技術を実践することができる。
4. バイタルサイン測定の目的について説明できる。
5. 呼吸・循環・体温の観察方法の基本を実践することができる。
6. 看護における感染予防の重要性について説明できる。
7. 基本的な無菌操作を実践することができる。
8. 身体の清潔保持が人間の健康に与える影響について説明できる。
9. 皮膚・粘膜・頭髪を清潔にするための基本を実践することができる。
10. 患者役を通して対象の立場に立ち、看護者としてのあり方を考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬



		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		的に示せることが単位認定の条件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会 がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会 はあるが、 単位認定に 関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：テキストの指定はありません。

参考書：配布資料に記載します。

成績評価方法：筆記試験、実技試験、授業への取り組みを総合して評価します。

その他（メッセージ等）：

対象に沿った看護を実践するためには、対象の状態をアセスメントする能力と技術力がが必要です。技術を習得するには、繰り返し練習することが必要です。学生同士で互いに刺激しながら、また、教員も活用しながら共に学んで行きましょう。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1・2回	ガイダンス	看護技術とは 日常的手洗い
第3・4回	休息と睡眠を整える①	ベッドメイキング
第5・6回	休息と睡眠を整える②	ベッドから起きることが出来ない対象へのシーツ交換
第7・8回	衣生活を整える	ベッドから起きることができない対象への寝衣交換
第9・10回	呼吸・循環・体温の観察①	体温測定 氷枕の作成
第11・12回	呼吸・循環・体温の観察②	脈拍測定 血圧測定の準備
第13・14回	呼吸・循環・体温の観察③	肺の聴診と打診
第15・16回	呼吸・循環・体温の観察④	座位での血圧測定（触診法と聴診法）
第17・18回	感染の予防①	無菌操作（滅菌手袋の装着）
第19・20回	感染の予防②	無菌操作（綿球の受け渡し）
第21・22回	皮膚と粘膜の清潔①	ベッドから起きることのできない対象への足浴
第23・24回	皮膚と粘膜の清潔②	ベッドから起きることのできない対象への洗髪
第25・26回	皮膚と粘膜の清潔③	ベッドから起きることのできない対象への口腔ケア
第27・28回	皮膚と粘膜の清潔④	石鹸を用いての部分清拭
第29・30回	皮膚と粘膜の清潔⑤	ベッドから起きることのできない対象への全身清拭

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：法学(日本国憲法を含む) (Japanese Constitutional Law)

教員名：藤野美都子

開講年次：1年次 学 期：2018年度 前期 選択

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：

※この科目は、養護教諭2種免許取得を希望している学生は必ず選択してください。

憲法は、権力担当者が権力を濫用し、人々の基本的人権を侵害することがないように権力を規制するものである。本講義は、日本国憲法を対象とし、憲法が保障する基本的人権および人権を保障するための枠組みについて学ぶ場を提供する。さらに、具体的な事例を通して、憲法が守られ人権が保障されているか否かについて、受講生自らが考えられる機会を設けた。

学習目標：

一般目標

(1) 法的な物の見方（リーガル・マインド）および法を知り使いこなす力（リーガル・リテラシー）を身につける。

(2) 憲法学を通して社会に対する理解を深め、能動的市民としての力を身につける。

行動目標

(1) 憲法とは何かについて説明できる。

(2) 日本国憲法の制定過程について説明できる。

(3) 国民主権と象徴天皇制について説明できる。

(4) 日本国憲法の規定する平和主義について説明できる。

(5) 日本国憲法の保障する基本的人権について説明できる。

(6) 日本国憲法の人権保障システムについて説明できる。

(7) 実社会において、基本的人権が保障されているか否か判断できる。

(8) 基本的人権が侵害されている場合の権利救済方法について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	基盤となる態度、スキルを

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		



		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

授業の際に教材を提示し、レジュメを配布するので、テキストは使用しない。なお、日本国憲法の条文の入手方法について、授業の際に説明するので、日本国憲法の条文を手元において受講すること。

参考書：

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第16版）』岩波書店・2015年

渋谷秀樹『憲法（第3版）』有斐閣・2017年

高橋和之ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）』有斐閣・2013年

成績評価方法：

授業への参画態度および提出課題の成績により、総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：

授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、憲法を学ぶ上で、社会に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて日々情報を収集し、社会に関する理解を深めていただくことを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	講義案内・憲法とは何か	講義案内・憲法の意味・ハンセン病問題について考える
第2回	憲法の誕生	日本国憲法の制定過程
第3回	国民主権と象徴天皇制	退位問題・女性天皇問題
第4回	平和主義	安全保障関連法
第5回	自己決定権	生殖補助医療の規制のあり方
第6回	男女平等	再婚禁止期間違憲判決と夫婦同氏合憲判決
第7回	表現の自由	ヘイトスピーチの規制
第8回	信教の自由と政教分離	内閣総理大臣の靖国神社公式参拝問題
第9回	人身の自由	被疑者・被告人の権利と死刑制度
第10回	生存権	日本の貧困問題と社会保障制度
第11回	労働権	労働時間規制と過労死問題
第12回	裁判を受ける権利	映画「フィラデルフィア」を通して考える裁判の意義

第 13 回	選挙権と選挙制度	小選挙区比例代表並立制
第 14 回	裁判所	司法制度改革と裁判員制度
第 15 回	財政	財政赤字と世代間の公平